

## 連合 2015 平和行動 in 沖縄

# 「日米地位協定」の抜本的見直しを！

## ～全国から約1,400人の仲間が結集～



平和行動 in 沖縄に参加された連合福島派遣団の皆さん

賀伸明連合会長は「連合は、沖縄県民の生命・人権・財産を守り、米軍基地で働く仲間の労働基本権を守るためにも、政府に対して弛むことなく、日米地位協定の抜本的見直しを求めて行くとともに、米軍基地の整理・縮小を進め、沖縄に過度に偏った基地負担の解消を要求していく。また、辺野古沿岸は、基地に代わる沖縄経済振興の大きな柱である観光資源の宝庫であり、なぜ沖縄県民が普天間基地の辺野古移設を反対しているのかを真摯に耳を傾け、丁寧な対話を重ねるべきである」と訴えた。



連合福島を代表してのデモ行進

連合は、沖縄戦から70年目の節目となる慰霊の日（6月23日）にあわせ、23・24日の2日間、2015平和行動 in 沖縄を開催した。

連合福島からは、派遣団として県南地域連合の春日議長を団長に8名が参加した。

1日目の「2015平和オキナワ集会」は、那覇市民会館において、全国から構成組織・地方連合会あわせて約1,400名が結集し開かれた。第1部は、「これからの平和運動と次世代への継承を考える」とのテーマで、連合沖縄・連合広島・連合長崎・連合北海道の青年委員会委員長等と連合山根木総合組織局総合局長によるパネルディスカッションが行われた。

続いて開かれた平和式典では、主催者を代表して古



立ち入り禁止のキャンプシュワブ前で

2日目は、各地方連合会の要望が組み込まれた「ピースフィールドウォーク」に参加した。

沖縄戦の激戦地、嘉数高台公園から普天間基地を望み、基地周辺に民家が立ち並ぶなか、オスプレイが離発着する滑走路を見ることができた。更に、4,000m滑走路2本と200機近くの軍用機が常駐する極東最大といわれる嘉手納基地の大きさには驚かされた。また、沖縄県民の声である普天間基地移設反対の辺野古・キャンプシュワブを、反対派が座り込みするテント村から見ることもできた。

そして最後に、「在日米軍基地の整理・縮小」「日米地位協定の抜本的見直し」を求める行動として、沖縄国際通りでのデモ行進に参加し帰路に就いた。